

おくとま登山学校 実技 『長淵丘陵、リスク予測、読図』実施報告

こんにちは、おくとま登山学校の松本圭司です。今回は2024年2月3日(土曜日)に行われた講習についてレポートします。場所は青梅の長淵丘陵、テーマはリスク予測と読図でした。リスク予測とはなにか?その名の通りリスクを予測して対処することです。これを説明するのが難しい。なぜなら、山はリスクだらけだからです!山は季節、時刻、年によっても変わるし、天気、メンバー、周りの登山者、地形、植生、野生生物などリスク源になるものだらけ。登山はとてハイリスクな遊びなのです。

さて、講習当日の天気は晴れ。予測したリスクは限りなく小さく、無事終了となりました。しかし皆さん覚えてますか。2日後の2月5日(月曜日)は大雪。関東では片っ端から電車が止まり道路も通行止めとなりました。青梅から先は翌日も運休してしまいましたね。もし2日ズレていたら大変な講習となったでしょう。下山先が青梅駅なので電車で帰ることは可能でしたが、ウツカリ青梅から先の駅で計画していたら詰んでいたかも知れませんが(それも考慮して青梅駅をゴールとして計画しました)。リスクはいろいろありますが、「かも知れない」と想像することでリスクに備えやすくなります。雷雨になるかも知れない、前を歩いている人が岩を落とすかも知れない、掴んでいる鎖が抜けるかも知れない、などなど。「かも知れない運転」ならぬ「かも知れない登山」でリスクに備えて安全登山をしていきましょう。

おくとま登山学校委員会 松本 圭司

良いお天気で、リスク予測的には快適すぎましたが楽しく講習できました。



冬の山岳写真講座 「厳冬の北八ッで撮る」開催報告

2023年全日本山岳写真展にて協会賞を受賞されたプロ写真家の塩田諭司氏を講師に迎え、2024年1月27日~28日、北八ヶ岳縞枯山・北横岳にて厳冬の撮影を行いました。

さすが八ヶ岳、2日間とも晴天に恵まれました。刻々と変わる太陽の位置や気温の変化で同じ場所でも雪山はいろいろな顔を見せてくれます。樹氷・霧氷の撮影方法、構図やホワイトバランスなどの質問が飛び交い、なかなか山頂までたどり着けません。しかしそこが山岳写真教室の醍醐味で、山頂への時間は全く気にしません。



冬の写真教室 (縞枯山山頂)

夜間や早朝も寒さに負けず十六夜を撮影しました。ただバッテリーの管理を怠ると寒さのためあっという間に撮影できなくなります。使い捨てカイロ等でカメラや携帯電話を保温することが大事です。今回は冬季の水場がない縞枯山荘に宿泊しました。夕食はカレーを用意していただきましたが、朝食は自炊です。カップスープ・カップ麺やアルファ米などに加え、ホットサンドメーカーを持参された強者もいて写真撮影以外でも楽しめました。その後2月14日には机上講習会(講評)が行われ適切なアドバイスをいただき、次回以降の課題となりました。受講生の素敵な作品は講師のコメントと共にHPにてご覧いただけます。

山岳写真教室は都岳連認定プロガイドが帯同しますので、登山初心者の方でも安心してご参加いただけます。2024年度は日帰り講習会を含め6回企画しております。塩田講師の懇切丁寧な指導の下、お気に入りの写真を撮りませんか?

プロガイド養成委員会 藤田 智子

加盟山岳会紹介・会員番号 538 ~頂山の会~

頂(いただき)山の会は2009年に設立。長い山岳会の歴史を考えると、比較的新しい山岳会です。会の特徴としては、高齢化が進む山岳会のなかで、20代~30代と若いメンバーが多く、毎年10名ほど新しい会員も増えています。

働き盛りの年齢ということもあり、夜遅くまで仕事をしている会員も多いので、月に一度の例会は、新宿を拠点にしており、20:30開始と他の山岳会と比べると遅いスタートかもしれません。在籍メンバーは、東京、千葉、埼玉、神奈川と様々です。YouTubeをはじめ、少し調べれば様々な情報にアクセスできる現在において「なぜ山岳会に入会しようと思ったのか?」と聞いてみると、「仲間がほしい」「ひとりでの限界を感じた」という意見を多く耳にします。コロナ禍のタイミングで山登りやキャンプなどアウトドアな趣味をはじめの方が増えました。その一方で、一般登山道から、ロープをつかったバリエーションルートや、冬山登山に足を踏み入れようとすると、そこにはひとつの壁が存在します。

頂山の会は、そんな「一歩踏み込んだ山との関係」を目指す方々にとって「良き活動の場」でありたいと考えています。活動範囲としては、縦走から、沢登り、フリークライミング、冬季含むアルパイン、バックカントリーと様々です。誰かに連れてってもらうのではなく、自分たちで目標を立て、必要なプロセスを考え、頂を目指す。そんな「自立した山ヤ」が育つ場になればと考えています。

頂山の会 会長 白鳥 陽太郎

編集後記

今年はずいぶん暖冬で雪が少なく冬合宿等で苦労された山岳パーテイも多かったのではないのでしょうか。二月中旬には夏日も観測されて蔵王のモンスターも消滅してしまいました。いったいこれから気候はどうなってしまうのでしょうか。都岳連の各委員会活動は昨年から継続して様々な事業が展開されています。誌面にも掲載されていますが、一月二十一日には「都岳連新春の集い」も開催されて、日頃お世話になっている方々を迎え、個人会員や加盟団体の皆様と有意義なひとときを共にしました。廣川会長も開催されて、日頃新型コロナウイルス感染症も終息しつつあるいま、事業活動も一層盛んになってきています。すでに花粉症の季節を迎え、山に入れば症状が出て悩まされる方もたくさんいらっしゃると思いますが、今年も元気で春山、夏山と、気を付けて安全な山行を楽しんでください。

出版委員会 星野 恒行



公益社団法人 東京都山岳連盟

〒101-0048 東京都千代田区神田町2-10 パークサイドセブン2F

Tel/03-3526-2550 (月~金13:00~17:00) Fax/03-3526-2551(常時) https://www.togakuren.com E-mail:lej04543@nifty.com

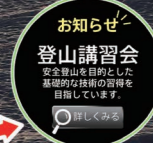
2024年1号

公益社団法人東京都山岳連盟

TMF とがくれん通信

写真: 登高会 嵩 桜井 進 / 「早春の暁」宝剣岳 和合の頭付近

都岳連 HP でクリック!



日本山岳・スポーツ・クライミング協会 (JMCSA) の財政危機への対応について

2024年1月1日の能登地震で亡くなられた多くの方のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの皆様にお見舞いを申し上げます。東京都山岳連盟には東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害、千葉台風災害など、これまで被災地にクライマーを送る会というグループでの復旧支援活動に参加してきたメンバーが多くおります。能登地震についても支援活動を進めて参りたいと考えております。

さて新年度を迎えるタイミングに厳しい話で恐縮ですが、全国統括団体のJMCSAが2024年度末に基本財産(3000万)を含む正味財産を失い、債務超過に陥るかどうかが、財政的に瀬戸際の厳しい状況に陥っております。経営失敗、大きく赤字を出したのは競技大会事業、選手強化事業、そして旅費などの予算外支出などによるものです。

この財政危機にあたり、JMCSAは財政基盤を強化するための基金の設置を決め、協力を呼び掛けています。

1. 基金の概要
 - ・募集は一口5万円が口数に上限なし、5000万円が目標額
 - ・拠出金への返還は貸借対照表上の純資産額が基金の総額を超える場合などに限られ返還はJMCSAの財務状況次第
 - ・利子配当はないが拠出は出資者として株式を保有するような意味合いがある
 - ・負債であるが、会計上は純資産ないし正味財産として扱う
 - ・社員(正会員・加盟団体等)が基金の拠出者となる、ならないは自由
 - ・JMCSA定款へ基金規定設置(2023年11月26日臨時総会で定款変更議決)
 - ・JMCSA基金取扱規程、事務処理要領の制定(2023年12月14日理事会で議決)
 - ・募集事項の決定(2024年1月11日理事会で議決)
2. 都岳連の対応について

当連盟では2月理事会で検討しましたが、再建計画並びに返済計画が充分でないこと、経営失敗に対する引責、体制刷新など、経営再建が見込める体制が整っていないことから、2024年度中の基金への拠出協力は見送りました。

JMCSA基金への拠出は当連盟の定款・規程上は理事会決定で拠出が可能と考えておりますが、相応の拠出が期待されているところでもあり、今後基金に拠出する場合は決定前に加盟団体、個人会員の皆様への説明会などを行いたいと考えております。

重要な対応となります。ご理解を頂きながら進めて参ります。宜しくお願いいたします。

東京都山岳連盟 会長 廣川 健太郎

盛会だった「2024年 都岳連新春の集い」

2024年1月21日、東京ガーデンパレスで恒例の新春の集いが行われました。運営者として大変喜ばしいことに、90名を超える皆様を参会者としてお迎えできました。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、都岳連の事業が流行前の水準に戻り、また、軌を一にして廣川健太郎会長をトップとする新体制になって初めての開催でした。

あきる野市の吉野敏郎副市長、JMCSA筆頭副会長である蛭田伸一様などご来賓からごあいさつを頂き、続いて全国山の日協議会理事長 梶正彦様の乾杯の音頭で晴れやかに集いが始まりました。また、恒例となったビンゴ大会には多くの協力団体様等から多くの景品を頂き、会場は明るい歓声に包まれました。ご協力いただいた皆様には心から御礼申し上げます。なお、今回も都岳連所属の5名のジュニアのスポーツクライミング選手をお招きしました。それぞれの今後の目標などご披露頂きましたが、それぞれが大きな目標と夢に向かって日々チャレンジしていることが伝わりました。

選手の皆様のご健闘を心からお祈りいたします。最後になりますが、2024年が皆様にとって健康で前進の息吹に満ちた1年となりますようお祈りし、集いのご参会と日頃の当岳連へのご支援に御礼と感謝を申し上げます。

総務部長 松本 敏



都岳連所属の5名のジュニアのスポーツクライミング選手



廣川会長の挨拶



新春の集い懇親風景

雪山教室 実技1 (谷川岳) 報告

都岳連「雪山教室」は、雪山に登ったことのない方や、独学で雪山に行ってみたが技術に不安のある方を対象に、毎年12月から5月にかけて開催しています。机上7回、実技(1泊2日)6回、オプション実技4回の講習を通して、基本技術の習得と多様な雪山経験を積んでいただくカリキュラムとなっています。

初回の実技講習は、2023年12月23日～24日、受講者32名・講師6名・スタッフ1名の39名にて谷川岳下部において実施されました。今回のテーマは「雪山体験、耐寒体験、雪に慣れる」。机上講習で学んだ雪山装備を買ってきたばかりという方も多く、装備の確認と装着法の指導から講習は始まります。その後、講師をリーダーにした6班に分かれ西黒尾根下部を歩いてみます。講習前日の金曜日から降雪が続いており、小雪の舞う中、50センチ以上の新雪を踏み分けて進むという、講習テーマに最適な状況となり、雪山の厳しさを楽しめる講習となりました。

2日目は、ロープウェイに乗って天神平に上がり、天神尾根下部で講習しました。晴天に恵まれ、1m近いパウダースノーの新雪を味わえる素晴らしいシチュエーション。前日同様6班に分かれ、ラッセル体験しながら天神峠まで登ります。初めてのラッセル体験は、皆さん悪戦苦闘しながらも、楽しくてしょうがないといった様子でした。又、天神峠は眺望がすばらしく、笑顔の溢れる講習となりました。

安全登山教室委員会 荒井 剛志



2023年度 岩場のセルフレスキュー実施報告

岩場のセルフレスキュー講習会を2023年12月17日(日)、東吾野駅近くの平戸の岩場にて開催しました。山岳会のリーダーや遭難対策の担当者、岩場でのセルフレスキュー技術を身に付けたい方などを対象とした講習会で、今回は懸垂下降からの登り返し及びセカンドレスキュー技術を基礎から学んでいただきました。皆さんの学ぶ姿勢は真剣そのもので、それに応えるべく講師スタッフ共に気持ちを新たに安全第一に全力で務めさせていただきました。

岩場で事故が発生した場合、とても重篤な怪我等を伴うケースが殆どで、一歩間違えば命を落とす事態にも容易になってしまいます。そういった意味では事故を起こさない事が究極のセルフレスキューと言えるのではないのでしょうか。岩場での事故で「これは回避出来たのでは?」と思われる事例を目にすることがあります。'慣れによるヒューマンエラー、とでも呼ばばよいでしょうか。基本的には安全確認を含めた同じ動作を確実に繰り返していればその様な事故は未然に防げる筈です。'なのに事故を起こしてしまう、これこそが私たちの本質であると認めざるを得ません。しっかりと認識すべき最重要事項でしょう。経験を積み重ねれば培われ

た技術や知識は自分を守る大きな武器になります。が、しかし、それと同時にその豊富な経験による慣れが自分を危険に晒す場合もあり得るという事を深く自覚するべきです。常に初心に立ち返り謙虚に山と向き合みましょう!

遭難対策委員会 横 昭善



杉山修の山と版画の世界

第9回

このコラムも9回目になりました。そろそろ吉田博のことを書かねばと思います。

私の版画人生を決定づけた画人です。明治、大正、昭和と洋画壇を牽引してきましたが、大正9年44才の時初めて木版画を手掛けます。たちまち大評判となりその後多くの山の作品を発表します。日本アルプスシリーズ、富士シリーズが有名です。書店で吉田博の画集に出会いました。もう40年前です。まず模写をはじめました。人づてに吉田家を追い続け多くの縁が繋がりました。

その博の長男で版画家の吉田に私は師事しました。現在は孫の吉田司さんと摺師沼辺伸吉さんに師事しています。木版画の技法は江戸の末期に頂天を極めます。その技法を受け継ぎモチーフを山岳にもとめ表現してきました。技法、素材は江戸時代と同じです。和紙、顔料、ばれん、すべてアナログの世界です。昔は絵師、彫師、摺師、三者分業でしたが、私はすべて一人でやっています。かなり体力がいります。77才になりました。頑張っていこうと思います。

さて今回の木版画は(高みをめざして、八甲田)です。初めて青森をめざしたのは東北新幹線が盛岡まで開通した翌年です。上野駅1番列車に乗り在来線に乗り継いで青森11時58分着。タクシーでロープウェイ駅へ。田茂沼14時スタート。宮様コースを滑り降り酸ヶ湯温泉に16時着。日没寸前に滑り込み。それから20回ほどかよいました。だんだん余裕も出てきて景色も脳裏にやきついた。



プロフィール
杉山 修 (すぎやま おさむ)
1946年 東京、下町に生まれる。
登山活動の傍ら、四季を通して、写真・スケッチの取材を行い、山岳風景をテーマに、自撮り、自彫りの木版画を発表している。
好山会会員、日本山岳協会代表幹事、日本版画院同人、日本山岳文化学会会員
ホームページ: osamuhanga.com



「高みをめざして、八甲田」
6版32摺 400×500mm
越前和紙 顔料 墨

優待施設紹介

八幡平高原ホテル 「おかえりなさい 高原のわが家へ」がテーマのあたたかい宿

八幡平は秋田県と岩手県にまたがる山およびその周囲の高原台地で、深田久弥の日本百名山に数えられています。八幡平高原ホテルは、八幡平アスピーテラインの秋田県側の代表的景勝地である大沼に近いブナ林の中にあります。標高約1000mに位置し、スキーや八幡平散策の拠点としても最適です。当ホテルの変わらぬテーマは、「おかえりなさい 高原のわが家へ」ですが、「故郷づくり」と「健康づくり」という運営テーマも掲げています。お客様の中には実家のご両親がなくなり、「ただいま」といって帰る故郷がないという方もいらっしゃるから、高原ホテルでありながらもアットホームな寛ぎの場をめざしています。心を込めたおもてなしを行うことがモットーで、リピーターのお客様が多いことが自慢です。当ホテルの泉質は含鉄単純泉で、神経痛、筋肉痛、関節痛、慢性消化器病、疲労回復などに効果があります。内湯に加え、ガウディをイメージした露天風呂も人気です。また、温泉の宝庫・八幡平にあるため、徒歩10分で行ける後生掛温泉をはじめ、車であれば蒸ノ湯温泉や大深温泉、玉川温泉などの名湯・秘湯の湯めぐりも楽しめます。料理は季節によって異なりますが、八幡平の山の恵みを中心です。地元の食材を使った郷土料理を心がけておりますので、是非一度、我が家のような寛ぎを体験して頂きたいと思っております。



八幡平山頂付近

全国優待施設案内

- ◎宿泊施設
 - ◎奥多摩/三条の湯
 - ◎奥秩父/雲取山荘
 - ◎富士山/三ツ峠山荘、トモ工館
 - ◎谷川岳・関東/谷川岳肩ノ小屋、永楽荘、谷川温泉(株)旅館 たにがわ、孀恋の宿 あいさい、土合山の家、下仁田 荒船の湯
 - ◎日光/日光澤温泉、スパ・ビレッジカマヤ、日光湯元温泉(株)奥日光小西ホテル
 - ◎浅間/天狗温泉 浅間山荘
 - ◎尾瀬/山ノ鼻小屋、尾瀬小屋、燧小屋
- ◎新潟/笹原館、燕温泉(有)ホテル花文、赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」
- ◎丹沢/蛭ヶ岳山荘、みやま山荘
- ◎八ヶ岳/蓼科山頂ヒュッテ、赤岳天望荘、ヒュッテ夏沢、美濃戸山荘、八ヶ岳山荘、八ヶ岳オーレン小屋、ペンションさんどりよん
- ◎北アルプス/明神館、太郎平小屋、薬師沢小屋、高天原山荘、スゴ乗越小屋、みくりが池温泉、雷鳥沢ヒュッテ、らいちょう温泉雷鳥荘、ロジック立山連峰、大和リゾート(株)Royal Hotel 長野、中房温泉、殺生ヒュッテ、新穂高温泉 ひがくの湯と登山者食堂、白馬八方温泉
- ◎中央アルプス/ゲストハウスみんなのいえ 赤石温泉
- ◎南アルプス/北岳肩ノ小屋、山彦荘、赤石温泉
- ◎東北・北海道/八幡平高原ホテル、アルプ天元台、八甲田山荘、飯豊山荘、竜山荘、三斗小屋温泉 大黒屋、酸ヶ湯温泉、ペンションあるべじお、八幡平リゾート(株)八幡平マウンテンホテル、(株)宿かり屋ドッドコム 焼走り国際交流村、(有)元湯甲子温泉 大黒屋、十勝岳温泉、(株)社凌雲閣
- ◎関西・中国/ホテル大山 しろかね、ペンションいぶき、皆生温泉(株)三井別館
- ◎四国/剣山頂上ヒュッテ
- ◎登山用具販売店 神田/さかいやスポーツ
- ◎クライミングジム 西東京市/クライミングジム GIRI.GIRI

TOBU 東武鉄道

finetrack

MCM Japan Ltd.

KEM K.E.M. JAPAN LTD.

mont-bell

COCO HELI

KAILAS

クライミングシューズ
リソール・修理

クライミング用品輸入販売

登山、クライミングの保険

有限会社
セブンエー

汗かく人が偉い人。

Pokkem

細谷火工株式会社
TEL: 03-3357-0781

Meiko
明室印刷株式会社
TEL: 03-5394-1861

OutdoorVillage

JR東上線徒歩3分
「東京登山」の新拠点

国内唯一の山岳遭難対策制度™
JRO(ジロ)の会員制度
JRO 捜索・救助費用を550万円までカバー。

入会お問合せ先
ジロ・リエゾンセンター TEL: 03-6273-1521

日本山岳救助機構合同会社

スポーツランド WINNER

BIG